

カンボジア医療の歴史、現在、そして未来 世界で役に立ちたいあなたへ

著：岩田 健太郎・林 祥史

この時代だからこそ響く、 真摯に生きる力

本書の表紙の左上には、
「みんな 人の役に立ちたくて、何か
がしたい。しかし現実には」
と書かれている。

このあとには「なかなか叶わない」
とか「挫折すること多い」といった
否定的な文章が続くそうだが、著者の
岩田先生は、実のところ「何かをして
人の役に立つ」ことを実践し、「世界
で通用する」ことを実現している。し
かも狙ってやっているのではなく、天
命に従いつつ、自然にそうなった、と
いう感じだ。

新型コロナウイルス感染症発生以降、
誰ともなく、おおっぴらに夢を語るこ
とが差し控えられるようになった気が
してならない。ステイホームの推奨で
出不精になった。目先のことにばかり
気をとられて、昔の夢も忘れ、将来の
展望もなく、ただその日を生きている
感じになっている。コロナ対策に疲弊
した医療職や公務員では、特にこの傾
向が強い。こういう状況のなかで、い
まだ熱く「世界のどこに行っても通用
する」ための努力を続けている岩田先
生は素晴らしい。

このような「イワタ精神」は、幼少

期から島根県とサッカーで培われたフ
ラットな価値観によるところが大きい
という。岩田先生のサッカー好きは存
じていたが、彼の世界観を形成するま
でに深く根差しているということは本
書を読んで知った。本書はイワタ版
「地球の歩き方 カンボジア」であり、
「世界史の教科書 アジア編」であり、
「13歳（医師は最短24歳か）のハロー
ワーク」である。そして、「私の履歴
書」でもあるのだ。

総論から各論へという旧来の形式な
ど気にせず書かれた、流れるような文
章を読んでいると、「USMLE STEP
1」の勉強をしていた頃の岩田先生が、
「テキストの最初からではなく、勉強
したいと思ったところから始めて、そ
こから関連する項目とか、気になった
項目とかを勉強していったほうが、頭
に入る」と言って見せてくれたノート
の中身を思い出す。

ちなみに、保健所についても所々で
言及いただき、感謝している。答弁
(?)させていただくのであれば、P.160
の「結核審議会」は「結核診査会（正式
名称は感染症診査協議会 結核部会）」
であり、各種提出様式のハンコレス化

は現在進行中である。そして感染症に
は「国境」はないが「圏域」はあるので、
統一的な対応を行わないと地域差が生
じ、患者の不利益になるためとして、
感染症法と治療指針に基づく対応をし
ている。

個人的には、こんな働き方をしてい
る公務員は「茹でガエル」というより、
「ピノッキオの冒険」の「クジラの胃の
中のジェペットじいさん」といった感
じだ（注：クジラに飲み込まれたジェ
ペットじいさんは、長い間胃の中で死
なない程度に生きながらえてきたので、
外に出る気がなくなっている、とい
う状況を示す。ディズニーより2019
年のイタリア映画「ほんとうのピノッ
キオ」のほうがリアル）。

本書には真摯に生きる力を感じる。
それが摩耗した日本の医療現場に伝わ
り、希望がもてる未来へとつながって
いくことを願う。

関 なおみ
（東京都 特別区保健所 感染症対策課長）



MEDSi
2,420円(本体2,200円+税10%)
A5/196頁
ISBN978-4-8157-3057-4